

横山勝也先生七回忌記念 一人吹きの会

平成28年3月5日(土)

13:00開演(12:30開場、18:00終演予定)

すみだトリフォニーホール 小ホール

御来場心から感謝致します。長時間にわたり誠に恐縮に存じます。

出演者諸氏には心からの声援を送ります。舞台はハレの場、絶体絶命の場、上がるもよし、上手下手を超えて、ひたすら吹き抜きましょう。横山勝也

(1998年、独り吹きの会 プログラムより)

横山勝也先生七回忌記念一人吹きの会に寄せて

「なんだ、その屁みたいな音は！」 「もう一度！ もう一度！ もう一度！」
「少しは稽古してるのか？ ここで腹筋をやってみろッ！」 「君の演奏は僕の琴線に触れない！」 容赦ない叱咤激励の言葉が発せられるようになったのは先生が病に倒れ、再び尺八を手にすることができなくなってからのことでした。それまでの楽しかった稽古場の雰囲気は厳しくなったレッスンと緊張感とで一変しました。

それは思ってもいなかった病の為、これから完成期にさしかかる60代半ばで尺八を吹けなくなった先生の無念な気持ちと、それゆえの門下の全員に尺八音楽の深奥を伝えるための力の限りを尽くしてのご指導のためであったように思います。稽古日には痛む半身を擦りながら、「ああー、よく来たね」と笑顔で迎えていただき、吹き終わった後には「君らのはなー、吹いて遊んでいるだけで本当の稽古になってないんだよ！」と叱責され続けました。

10年の間、先生は文字通り死力を尽くして尺八音楽の真髓を伝えようとしてご指導くださいました。

先生が亡くなられて6年、参加者全員が横山勝也の分身として「尺八楽の真髓」を追求して参りましたが、七回忌を迎えるに当たり、先生に聞いていただく覚悟で一曲ずつ吹く機会を設けました。

「上手い下手を超えたところにこそ尺八音楽の真髓が在る」ことを実践する舞台と心得ております。

国際尺八研修館(KSK)は創設以来、春・夏の講習会、美星町でのフェスティバル、海外での協賛フェスティバルなど多くのイベントを開催してまいりました。

ヨーロッパKSKは一昨年立ち上げられ、北米KSKは本年立ち上げられる運びとなり、「横山勝也の尺八音楽」は世界的規模に広まりつつあります。

また先生の夢でもあった、「国際尺八研修館の法人化」を準備中でもあります。

「仏の勝也」が「鬼の勝也」に変わり、次代に託すべく、門下生全員に声を振り絞ってご指導くださった「横山勝也の世界」をより豊かな尺八音楽として継承すべく、本日の舞台を全力で勤めたいと思います。

本日はご来場くださいますとありがとうございます。

横山勝也先生七回忌記念一人吹きの会 幹事 (文責・眞玉和司)

❀ 曲目、演奏者、ひとこと ❀

1. 産 安 (さんあん) 伊藤 奈緒子
先生の産安に深く心を動かされ、自分も吹きたくなりました。吹きたくて吹きたくて今日まで来ました。
2. 松巖軒鈴慕 (しょうがんけんれいぼ) Peter Hill
I first started listening to recordings of Yokoyama sensei shortly after I began learning shakuhachi. I was deeply impressed by all of his playing, but three honkyoku pieces affected me especially profoundly, and Shoganken Reibo was one of those three pieces. The additional meanings or ideas Sensei would convey to me about the honkyoku I learned from him, in the case of this piece, have resonated particularly strongly with my experience following this path of shakuhachi. So while it's not the piece I'm most keen to perform, due to its relentless nature, it is one I am most keen to play in memory of Yokoyama sensei.
3. 鶴の巣籠 (つるのすごもり) 本間 豊堂
中央大学竹桐会で尺八を習い、4年の定期演奏会でソロを吹きたいと挑戦したのが『鶴の巣籠』でした。それ以来、ここぞという時にはこの曲を演奏してきました。あれから16年、成長した鶴になっていると良いのですが。
4. 浮 雲 (うきぐも) 川又 昇 (竹号：溪童)
自然のままにゆったりと流れる雲になりたいです。
Jim Franklin 作曲
5. Salz (さるつ) Jim Franklin
During my first lesson with Yokoyama-sensei, he was very pleased to hear that I was a trained composer as well as shakuhachi-player. I had given him a CD with a piece of mine for shakuhachi and electronics, and he played the CD to many people that day. As a result of Yokoyama-sensei's interest in new compositions, I wished to play a composition of mine in this concert. "Salz" (English: 'Salt', Japanese: 'shio') was composed in 1999 as a commissioned work for a concert during the biannual National German Lutheran Church Convention in the same year. The motto of the Convention was a text from the Christian Bible: "You are the salt of the earth", and I took the word 'salt' in German for the title. In the piece I try to move musically between the 'feel' of honkyoku and the scales more typical of Western music.
6. 手 向 (たむけ) 長谷川 章
横山先生の講習会を拝聴し、先生の熱意ある講習内容、独特な素晴らしい音色とお人柄に魅了され美星でレッスンを受けました。今でも先生の懐かしい声と尺八の音色が思い出されます。
7. 虚 空 (こくう) 岡田 裕子
独り吹きの際は、初参加です。虚空を四寸でぜひ吹きたいと思います。横山先生のお稽古を思い出しながら…。
8. 産 安 (さんあん) 長谷川 光治
休憩後でざわついていた会場が、横山先生が、産安を演奏し始めたとたんに、会場内が静まり、聴衆が聴き入るのをみて感動したのを覚えています。それには、とてもかえませんが、心を込めて演奏したいと思います。
9. 霊 慕 (れいぼ) 免出 隆行
40代は霊慕にかけた、とおっしゃった師匠の後ろ姿を 私は60代で追っかけ始めました。なぜ霊慕だったのか、そのお気持ちがこの頃やっと分かるようになりかけたところです。

10. 虚空(こくう) 大谷 康畝

勝也先生と出会うことで、私の人生はとても充実したものとなりました。感謝しています。虚空について、私達らんぽ会の不勉強を「曲が迷子になっている」と指摘されたのが、思い出です。

福田蘭童作曲

11. 蟲月夜(むしづきよ) Larry Tyrrell

こおろぎよ、お前も悲しいか、そうだ秋だ、秋だ、凋落の秋、人生の幻威おゝなげ、こおろぎよ、ないて呉れ、君去りし日の夜を永遠にこの日を。

Adrian Freedman作曲

12. 随風随心(ずいふうずいしん) Adrian Freedman

The first time I heard Yokoyama Katsuya play, it felt like electric shocks going up and down my body. I had this feeling every time i heard him play. Especially in lesson time. He inspired and encouraged me to open my heart through music. And to understand that the diverse musical phrases in the honkyoku are preparation for the subtle shades of silence that follow. The journey of learning the shakuhachi with Yokoyama was steeped in tradition but he seemed to meet us in a place beyond national cultures, where the most profound vibrations of human and universal consciousness echo.

13. 打波(だは) 増川 清一郎

稽古では横山先生から「育ちの良さが窺がえるようなのんびりした演奏」としばしば評され、切実さや妥協のない演奏を求められました。それに少しでも応えられるよう、打波が打破となるよう破格な演奏を心掛けたい。

14. 産安(さんあん) 酒井 正毅

昭和43年頃、初めて横山先生の「産安」を聞き、心が震えました。その後、縁あって先生に師事することが出来、道曲一筋に精進してきました。本日は、心を込めて、祈りを込めて演奏いたします。

15. 心月(しんげつ) 岡田 道明

永遠に続くかのような弱音に憧れ、「どうすれば」と尋ねたことがある。「痛切にその音を欲することだ」との答えに当時は煙に巻かれたような気がした。それが極意であると理解する様にはなったが、その音はまだ遠い。

16. 霊慕(れいぼ) 高橋 響

横山先生がご病気になる前、最後に一緒に吹いて頂いた曲。ご療養を挟んで4年お稽古して頂きましたが、上げて頂けませんでした。一生かけて吹く曲、とのご指導を頂き、その様にしています。肩の力を抜いて吹ければ…。

17. 松巖軒鈴慕(しょうがんけんれいぼ) 川岡 茂美

横山先生に二尺四寸を作っていただき、最初に教えていただいたのが、この曲でした。哀愁を帯びた旋律、松巖軒独特の展開・構成が大変魅力的で、私にとって、とても思い出深い曲です。

18. 心月(しんげつ) 鈴木 孝司

勝也先生がよく口にしていた“読書百遍義自見”の言葉が度々過ります。お竹を手にして40年、下手は下手なりに一音・一息の中に百八つの楽を乞い、己に優しく無理せず是日々鍛錬・一所懸命さ迷いながら。ワーー喝！

19. 産 安 (さんあん) 佐々木 徹

入門翌年に無謀にも憧れの産安に挑戦。考え抜き、自分を見つめ続けた2年でした。ただ精一杯吹くだけではだめで、吹いている自分の姿が外から見えてきた時、先生からお許しをいただきました。私を造った一曲です。

20. 山 越 (やまこえ) 素川 欣也

横山先生の音楽は僕の尺八生活のきっかけであり、またその音楽に対する姿勢は今も僕の大切な宝物です。まだまだ勉強が足りませんがこれからも尺八と一緒に暮らしていきます。ありがとうございます。

21. 産 安 (さんあん) 柿塚 香

M先輩から「横山先生に7年ぶりに稽古してもらおうと思って吹け」と言われました。横山先生から「君は7年間何をしていたんだね?!」と言われないようにと思いつつ。。。

横山勝也作曲

22. 魔 切 (まきり) 伊藤 恵三

先生は私にとって父親以上の存在です。先生に巡り合えて本当に幸運でした。今でも、中野に行けば先生にお会いできるような気がしています。

23. 心 月 (しんげつ) 土屋 雅章

入門以来、長い年月が経ってしまいました。ずっと、強い音と曲の雰囲気を感じていましたが、やっと音程の大切さを痛感しています。これから先も続ける決意を、吹ければと思います。

24. 薩 慈 (さじ) 泉 武夫

かつて先生の面前でおそろおそろ吹いてみたところ、ありがたくもその調子で頑張れと励ましの言葉をいただき、以来練り上げの努力を続けています。今回は省略なしの演奏に挑戦します。尺八は地無し管です。

25. 三 谷 (さんや) 竹内 一裕

只管打坐のごとく只管打吹。

26. 産 安 (さんあん) 名古屋 真

師の門に入って35年。ひどい人見知りのうえ当初まったく音が出ず酸欠状態で、これでは続かないと悩みました。紆余曲折、なんとか虚無僧尺八を吹けるようになり、うれしい限りです。ひとえに師の強烈な求心力があったればこそと感謝あるのみです。

27. 大和調子 (やまとぢょうし) 吉川 茂

「大和調子」は自然に暗譜で吹けた最初の本曲でした。当時は旅先のお寺でよく吹きました。名人谷狂竹がどのように吹定したのか常々知りたと思ってきましたが、今回は「レクイエム」として横山勝也師に捧げます。

28. 鶴の巣籠り (つるのすごもり) 三浦 龍畝

若かりし頃、勝也先生門下の演奏会に出演させて頂く事になりました。曲目は、当時FMで放送され憧れた勝也先生の「鶴の巣籠り」を自分なりに解釈してみました。本日は、原点到に帰り当時のスタイルで吹かせて頂きます。

横山勝也作曲

29. 惜春 (せきしゅん) 菅原 久仁義 箏：泉山 章子 (友情出演)
門下で一番の不登校&素行不良の生徒です。にも関わらず最後まで破門、追放の刑に処せず門下生として在籍させて戴きました。いつも「奥さんは元気かね？」と気にかけて頂いた家内と名曲「惜春」を演奏致します。

30. 鹿の遠音 (しかのとね) 関 一郎 八久保 保
40年程前、初めて横山先生の高円寺の稽古場に伺った際の颯爽としたジーンズ姿と柔和なお顔を忘れる事が出来ません。先生の強くて包容力のある口の音 (筒音) も忘れずに少しでも近づく様精進します。(関)

1977年 夏頃 高円寺のお稽古場でした。“腹の底から！ 上手い・下手の問題じゃないんだ。どれだけ君が痛切な想いを持っているかなんだ。” 「鹿の遠音」の熱い稽古が鮮やかに甦ります。 十念 (八久保)

沢井忠夫作曲

31. 上弦の曲 (じょうげんのきょく) 占部 三龍 箏：岡田 明子 (友情出演)
約15年前先生から「上弦の曲」を基本からご指導いただきましたが……今も一生懸命あがいて演奏しています。

32. 虚空 (こくう) 吉岡 龍見
「違うんだよね。」これが私が横山先生に「虚空」をお習いしていた数年間のお言葉でした。最初の三呼吸・四呼吸吹いたところで、いつも言われていました。横山先生の前で、「虚空」全曲を吹いたのは、4・5回しかなかったと思います。しかし、この経験が私には大変良い経験となり、間の取り方、一音の大切さ、演奏する際の精神性、等を叩き込まれた思いが致します。本日は、その思いを込めて、演奏させていただきます。

33. 打波 (たは) 岩橋 庸一
高校時代に「現代の日本音楽」というFM放送で聴いた音色に惹かれて尺八を始め、古典本曲に触れました。その時々奏者の心情にいつも寄り添ってくれるようなシンプルな構成の打波・手向・山越・本調といった小品に魅力を感じます。

34. 霊慕 (れいぼ) 矢野 司空
広島大学在学中に聴いた武満徹の「エクリプス」と「ノーヴェンバーステップス」に圧倒され横山先生以外に師事する人はいないと思い大学を中退して上京。以来45年の歳月が過ぎました。一音成仏。

35. 山谷 (さんや) 眞玉 和司
尺八一管韻悠々

福田蘭童作曲

36. 桔梗幻想曲 (ききょうげんそうきょく) 高橋 法聖
流麗で美しい音色と、長管から響く凄まじいまでの低音に魅せられ、入門させていただきました。あれから約半世紀、どんなに努力しても到達できない師の芸術の偉大さを改めて実感しております。—合掌—

37. 産安 (さんあん) 古屋 輝夫
お側に40余年。他に類のない根元的な音の世界を見せて頂きました。スケールが大きすぎて後を追えませんが『君らしく、思いっきりやりな！』の言葉を力に、師から頂戴した尺八楽を伝えて参ります。

福田蘭童作曲

38. 桔梗幻想曲 (ききょうげんそうきょく) 田辺 芳計

淋しい曲だなァ……。音、ありや、無しかの貧しい私の竹に、師のつぶやき。
傷心の若き、あの頃の師弟二人つきり。庭の、こおろぎも、鳴くことを、やめていた。
今は、遠い、遠い代々木稽古場、秋の終わり。

尺八古典本曲 横山勝也作曲

39. 手向 (たむけ)、響流 (ごうりゅう) 全員

YOKOYAMA-SENSEI ONCE TOLD ME

—Riley K. Lee—

Yokoyama-sensei once told me—at least I think he told me this—that I should aspire to become the best shakuhachi player in the world. Of course, he said, this was an impossible goal, partly because no one can decide who is the best. It's not like setting a new world record for running a marathon. Shakuhachi playing can't be so easily quantified.

Yokoyama-sensei elaborated by explaining that any goal that was actually possible to achieve was not worthy of being a "lifetime goal." There may be lesser goals 'along the way.' I might be able to accomplish these types of goals. But if I achieve my "lifetime goal," what do I do then? Stop living? It would really mean only one thing – I have set my goal too low.

Also, "lifetime goals" never engender disappointment. An example of a lifetime goal is 'walking to the horizon.' If I never seem to get closer to the goal, no worries. That's the nature of the goal. My "lifetime goal" requires a lifetime of supreme effort, yet I should not have any expectation of ever reaching it.

Perhaps Yokoyama-sensei never said this to me. I think he did, but I am not sure if he actually did or not. It really does not matter. The point is that Yokoyama-sensei inspired me in a way that allowed me to understand this big idea, and motivated me to share the idea on to others.

I think this big idea, which I attribute to Yokoyama-sensei, has made me a better shakuhachi player and a better person.

My memories of Yokoyama-sensei and what he taught me are imprecise. Maybe I have created in my own mind, a larger-than-life, mythical Yokoyama-sensei, who transcends the real person. Again, this does not matter.

The point is that my faulty memories of his teaching, shakuhachi playing and other acts of just living, continue to inspire me nearly every day of my life. I am forever grateful to him.

So, what is my "lifetime goal," which I know is absolutely impossible to achieve?

What else, but to play shakuhachi as well as Yokoyama-sensei did. In my mind, that's the same goal as the one he first suggested I should aim for.

竹心会、国際尺八研修館 (事務所担当 / 古屋輝夫)

130-0026 東京都墨田区両国 3-25-9-304

03-3846-4447 furuya108@yahoo.co.jp

2. 松巖軒鈴慕 (しょうがんけんれいぼ) Peter Hill (ピーター ヒル)

横山先生の録音を聴き始めたのは、尺八を始めて間もない頃でした。横山先生の演奏のうち、私が特に深く感銘を受けた三曲の中の一曲が松巖軒鈴慕でした。この曲において、先生から伝えていただいた本曲の意味や思想は、私の尺八のいままでの経験ととても強く共鳴しました。この曲は普段人前で演奏したいと思っておりますが、この曲が持つ厳かな真髄から、横山先生を追悼するこの会で皆さんの前で演奏したいと強く思うようになりました。

Jim Franklin 作曲

5. Salz (さるつ) Jim Franklin (ジム フランクリン)

横山先生の初めての稽古の時、先生は私が尺八奏者としてだけではなく作曲家であることを喜ばれておりました。私の作曲した尺八の曲と電子音楽のCDを先生へ差し上げたところ、先生はその日に多くの人にそのCDを聴かせて下さいました。横山先生は新しく作曲された曲に興味を示してくださるので、今回の演奏会で自分が作曲した曲を演奏したいと思えました。Saltzは(日本語で塩)1999年に国際ドイツルター派教会の集会で行われたコンサートのために委託され、作曲した曲です。その集会の標語は聖書の"あなた方は地の塩である"からきています。その文の塩という言葉を用いし、ドイツ語で題名にしました。この曲を演奏する上で、本曲の感覚と西洋的な音階を表現したいと思えます。

Adrian Freedman 作曲

1 2. 随風随心 (ずいふうずいしん) Adrian Freedman (エドリアン フリードマン)

横山先生の演奏を初めて聴いたとき、電撃のようなショックが全身を駆け巡りました。先生の演奏を聞くたび、稽古のたび、その感覚を覚えました。先生は音楽を通して私の心を開くように奮い立たせて下さいました。また、本曲の中の多様で音楽的な節は、静寂の間の中にあるということも理解させて下さいました。横山先生と歩んだ尺八道は日本の伝統そのものでありましたが、人々と全世界の意識の中にある深い振動が響き合うような文化を超越したところで、私たちを会わせて下さいました。

寄稿. 横山先生が私に一度仰いました事 Riley K. Lee (ライリー リー)

横山先生は私に"あなたは世界一の尺八奏者になることを熱望するべきだ、ただ誰が1番だということは決められないからその目標を達成することは不可能でもある"と仰いました。尺八の演奏は容易に数値化できるものではなく、マラソンの世界新記録のようにはいきません。

現実可能な目標は人生の目標とする程の価値はないということを横山先生は詳しく述べて下さいました。世界一までの道のりを歩む中で、劣る目標もあるかもしれません。それらの目標については達成できるかもしれません。しかし、その人生の目標を達成したとき私はどうするのでしょうか。生きることをやめるのか。その達成は、自分が決めた人生の目標が低すぎたということしか意味していません。

また、人生の目標が失望を生むようなことはありません。人生の目標となりうる例として"地平線まで歩くこと"があります。もしその目標に近づけずとも、心配ありません。それがその目標の本質であるからです。私の人生の目標は非常に大変な努力を必要とし、私はまだ達成できることを期待するべきではありません。

もしかしたら、横山先生はこんなことは私に仰らなかったかもしれません。実際がどうかは不確かでも、私は先生が仰ったと考えています。大事なことは横山先生がこの大きな思想を私に理解させて下さり、またこの思想を他の人々に共有することを私に動機付けて下さったことです。

横山先生のこの大きな思想が私をより良い尺八奏者、人間へ成長させてくれると考えています。私の横山先生に対する記憶と、教えて下さったことは不確かかもしれません。もしかしたら、私自身が想像で作り上げた、英雄であり、実際の人間を越えた横山先生なのかもしれません。

大事なことは、先生の教え、尺八演奏、その他の生き方の定かでない記憶が、私の人生の毎日において背中を押し続けているということです。私は永遠に先生に感謝しています。

達成することが絶対に不可能である私の人生の目標とはなんでしょうか。

横山先生と同じように演奏することの他になにがあるのでしょうか。私にとって、先生のように演奏することは、先生が最初に仰った"世界一になる"ということなのです。